

Children of the Gulf War

特に注目されるのが白血病やガンによる死亡者の急増だ。
……「広島に落とされた原爆の1万4千倍から3万6千倍の放射能原子が
ペルシャ湾岸地方にばらまかれた」…
湾岸戦争は新たな“核戦争”でもあったのである。
著書「イラク・湾岸戦争の子どもたち」前文より

森住卓 写真展

イラク・湾岸戦争の子どもたち

5月1日[木]—8日[木] セントラルパーク市民・情報ギャラリー
地下鉄始発～終電まで(8日は17:00まで) 地下鉄「久屋大通駅」北改札口

同時開催
入場無料

森住卓 講演会

「イラク・湾岸戦争の子どもたち～今また劣化ウラン弾が」

5月2日[金] 18:30開場 19:00開会 名古屋YWCAビッグ・スペース
(名古屋市中区)

サファアは白血病。治ったわけではなく、薬が底をついたから仕方なく病院を退院する。
それでも我が家に帰れると笑顔をみせた。

森住卓写真展 イラク・湾岸戦争の子どもたち

私は1998年以後5年間に渡ってイラクの子どもたち取材してきた。イラクでは、湾岸戦争後、白血病、ガン、奇形などが多発し、病院は子どもたちであふれかえっている。急増する子どもたちの白血病に対応するため93年にはバクダッドの二つの小児病棟に白血病専門病棟ができた。しかし、経済制裁の影響で、病院には医薬品が不足し、医師たちは溢れ来る重症患者に手の施しようもない。こうした異変の原因は湾岸戦争時、米英軍が使った劣化ウラン弾によるものだと考えられている。

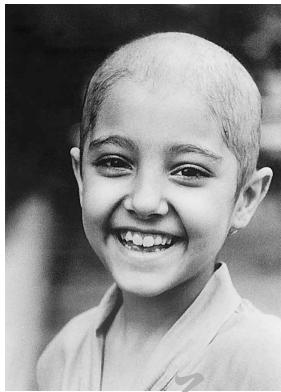
劣化ウランは核燃料や核兵器用のウランの濃縮過程で出る、放射性廃棄物である。硬くて重い性質に目をつけた兵器産業は砲弾として開発した。高速で標的に激突すると、その衝撃と発熱で激しく燃焼し、微粒子となり、大気や土壌、水を汚染する。体内に入れば金属毒と相まって、ガン、白血病、肝臓や腎臓傷害、腫瘍、奇形児出産などが発生する。

湾岸戦争で300トン以上の劣化ウラン弾が使用されたという。広島に落とされた原爆の1万4千倍から3万6千倍の放射性原子がまかれたことになる。ボスニア、コンボでも使われ、アフガニスタンでも使われた可能性が強い。今後も、繰り返し劣化ウラン弾を使用すれば、地球環境と人類の未来に取り返しのできない危険をもたらす。イラクの子どもたちは、人類の未来に警鐘を鳴らしている。

森住 卓

Children of the Gulf War

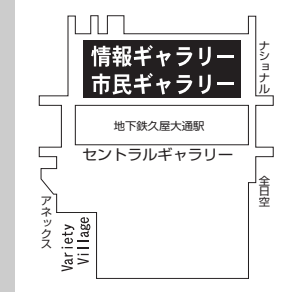
チクリス川からの川風がサファアの白いショールを剥ぎ取ってしまった。白血病治療のための抗癌剤の副作用で髪の毛が抜け落ちてしまったのだ。(マンストール小児病院白血病専門病棟の玄関にて)



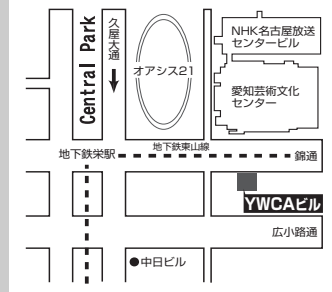
それ
これで
撃つ
つら
のか

会場案内

写真展(会場は地下です)



講演会



よびかけ

かつてない反戦の波が世界中で沸きあがるなか、アメリカとイギリスの連合軍はイラク攻撃を開始し、人々の命が奪われています。

1991年の湾岸戦争で米英軍はイラクに対して300t以上の劣化ウラン弾を使用しました。その後イラクでは子どもたちに白血病やガン、奇形などが多発し今も苦しめられ命が奪われ続けています。そして今また劣化ウラン弾が米英連合軍によって使用され放射能がまき散らされています。フォトジャーナリストの森住卓さんは、湾岸戦争の傷跡に苦しむイラクを取材し続けてきました。そして今回のイラク攻撃でも、アメリカの無法を許さずブッシュ大統領の戦争犯罪を記録するために戦火の中を取材し続けています。カメラに納められたイラクの人々の現状、子どもたちの声なき叫びはまぎれもない現実です。

罪もない子どもたちの命を奪う戦争に正義も大義もありません。ぜひ多くの方々に写真展と講演会に足を運んでいただきたいと思います。

賛同募金のお願

この写真展と講演会は多くの方々に観ていただくために無料で開催します。心ある方の募金をお願いします。なお、必要経費を上回った場合は、イラクの子どもたちの医療支援に充てさせていただきます。

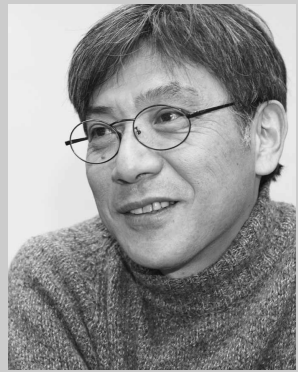
郵便振替 00850-4-68276 「イラクの子どもたち」写真展実行委員会

代表呼びかけ人

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 明石 共世 (愛知県学生自治会連合執行委員長) | 竹原 直希 (愛知県高等学校教職員組合青年部) |
| 浅見 裕子 (主婦) | 田中 道代 (愛労連婦人協議会) |
| 岩中美保子 (革新・愛知の会) | 棚橋 千里 (医師) |
| 小野万里子 (セイブ・ザ・イラクチルドレン・名古屋代表) | 戸田 徳重 (写真家) |
| 加藤 実 (愛知のうたごえ協議会事務局) | 中江 求 (写真家) |
| 川村ミチル (俳優・劇団うりんこ) | 見崎 徳弘 (愛知県労働組合総連合議長) |
| 桐村 朋 (名古屋市職員労働組合青年部) | 三富和歌子 (保育者) |
| 酒井 康雄 (ギタリスト・日本音楽家ユニオン中部地区代表) | 嶺村 君代 (保育士) |
| 佐久間広一郎 (演出家) | 武藤 陽子 (演劇人・劇団名芸) |
| 高森 裕司 (弁護士) | 本 秀紀 (愛知憲法会議事務局次長・名古屋大学助教授) |
| 竹内 創 (愛知労働学校講師) | 八木素実 (命どう宝の会) |
| | 安富 翔子 (4.20フントン行進参加者) |

主催/森住卓写真展「イラク・湾岸戦争の子どもたち」を成功させる会(愛労連気付)

〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町9-7 TEL052-871-5433 FAX052-871-5618
E-mail children@airoren.gr.jp



森住 卓(もりすみ たかし)プロフィール

1951年生まれ フォトジャーナリスト
米軍基地や環境問題をテーマに取材活動を開始。

1983年より三宅島米軍基地問題の共著「ドキュメント三宅島」(大月出版)で日本ジャーナリスト会議奨励賞を受賞。

1994年より世界の核実験場の被曝者を取材開始する。

1994年「旧ソ連セミパラチンスク核実験場の村―被曝者のさげび」を自費出版、売り上げを被曝者の兼代に充てている。セミパラチンスクの写真で96年視点展「視点賞」。

1999年「セミパラチンスク―草原の民・核汚染の50年」(高文社)出版。週刊現代「ドキュメント写真大賞」、第5回平和協同ジャーナリスト基金奨励賞をそれぞれ受賞。

1999年、個展「被曝者のさげび―旧ソ連セミパラチンスク核実験場の村」(東京・銀座二コソロン)を開催。

写真パネルを各地の公民館や平和の催しに貸し出している。同時に核実験被害の実情を講演。

2000年「民族の嘆き―コンボ1999」で写真公募展「視点」奨励賞受賞。「セミパラチンスク―草原の民・核汚染の50年」(高文社)が日本ジャーナリスト会議特別賞。

2002年「イラク・湾岸戦争の子どもたち劣化ウラン弾は何をもたらしたか」(高文社)出版。同写真展が日本、アメリカ国内で巡回中。

2002年、英語版「Children of the Gulf War」(劣化ウラン弾禁止を求めるグローバル・アクション)

2003年「戦時下の生活と恐怖、イラクからの報告」(小学館文庫)を江川紹子氏と共著にて出版。いまま戦火のイラクを取材中。